

システムの構築を図った。

成果の概要

本プロジェクトでは、まず、本NMR装置にオートサンプラー(写真1)と連動させた光磁気ディスク・NMRデータ解析システム(写真2)及びセカンド端末(写真3)を付設した。オートサンプラーと光磁気ディスクを組み合わせて用いれば、休日・終夜を問わずデータを連続収集でき、そのデータを大容量に保存しておくことができるようになった。従来は、記憶容量が不足していたので、収集データを一定期間後には消去しなければならなかったが、今後は保存が可能となり、新たに収集したデータとの比較などのために使用できることになった。これは、将来のデータベース構築のための貴重なデータとなる。また、データ解析を本体装置とは切り離れた専用のデータ解析システムで行えるため、それぞれの研究目的に即したデータ解析を時間の制限なく存分に行うことが可能となった。このことは、セカンド端末との併用により一層効果的になった。こうして、これまでデータ解析に費していた時間を次の試料の測定ならびに装置本体の微細な調整に充分に当てられることになった。

まとめ

本システムの構築によって、超高分解能NMR装置の高効率的な運用が可能となった。特に、データ解析が効率化され、時間の制限を受けないで、研

究者が独自に徹底的にデータ解析を行うことが可能となった。また、将来のデータベース構築のための基盤もできた。このように、利用者にとっては一段と利用しやすい環境が整備された。

被爆関連文献資料のフルテキスト・データベースの構築と分析のための試験的研究

平和科学研究センター	松尾 雅嗣	文 学 部	好村 富士彦
原爆放射能医学研究所	字吹 暁	平和科学研究センター	田村 佳子
学 部	川崎 信文	総合科学部	舟橋 喜恵

プロジェクトの概要

広島・長崎の原爆被爆関連文献資料に関しては、被爆記事目録、被爆手記目録、原爆文学目録等、幾つかの目録作成の作業は行われているが、学術研究という立場から個々の文献資料をコンピュータに入力し、フルテキスト・データベースを作成する試みはまったく行われていない。ましてや、このように作成したフルテキスト・データベースを使用した被爆手記、原爆文学などの学術的研究、例えば内容分析法、語彙統計的手法などによる分析はごく少ない。このような現状に鑑みれば、被爆手記、証言、文学作品などを

テキスト・データベース化し、その検索、分析の方法を確立することは、学術的にもきわめて重要であり大きな意義を有する。本プロジェクトでは、このような研究の基礎を構築するため、①初期の代表的被爆手記、証言、原爆文学作品をパーソナル・コンピュータに入力し、フルテキストとしてデータベース化する、②テキスト・データベースの検索、計量分析のためのコンピュータプログラムを開発する、③①と②にもとづき、被爆関連文献資料の分析を行う、ことを主たる目的とした。

成果の概要

本プロジェクトの研究成果は以下のとおりである。詳細に関しては、「広島平和科学」(広島大学平和科学研究センター)一四号所収の報告書を参照されたい。作成したテキストとプログラムは、研究・教育目的に限り、若干の制限を付けた上で、利用に供する。一、フルテキスト・データベースの作成

以下のテキストを、検索、分析可能な形でパソコンに入力した。

『原爆詩集』(峠三吉、青木文庫版)

『屍の街』(大田洋子、冬芽社版)

『原爆体験記』

『広島市民生局版、朝日新聞社版』

『天よりの声』(ヒロシマ・被爆二年目の手記)

『Y.M.C.A.出版、一九八三年版』

『広島市平和宣言集』

(一九九一年まで)

『「あの日」の証言』

(日本原水爆被害者団体協議会、一九八八—一九八九年)

これらのテキストは、並行して開発した検索プログラム(次の二参照)により全文を対象としてパソコン上で検索できる。また、上記のほか「ヒロシマ日記」(蜂谷道彦)は入力作業を終